

修士論文の内容要旨

【分野】 統合保健看護科学

【題名】

Robson 分類を用いた無痛分娩導入前後における帝王切開率の推移の検討
(Examination of trends in cesarean section rate before and after the
introducing epidural analgesia on labor using the Robson classification)

生命育成看護科学講座 溝上葉月

【目的】産婦希望の無痛分娩を新規に導入することで導入前後において帝王切開率が上昇するか、また産婦希望の無痛分娩を実施することで帝王切開率が上昇するかを、Robson 分類を用いて明らかにすることを目的とした。

【方法】大阪大学医学部附属病院で 2007 年 1 月から 2018 年 12 月までに出産した全妊婦を対象とし、産婦人科の分娩登録データベースを使用した。2016 年に産婦希望の無痛分娩を導入しているため、2015 年までを導入前、2016 年以降を導入後とした。産婦の特徴は Robson 分類を用いて分類した。対象者の背景について記述統計を行い、産婦希望の無痛分娩導入前後における帝王切開率の比較は χ^2 検定、Fisher の正確確立検定を、産婦希望の無痛分娩実施と帝王切開率との Robson 分類ごとの比較は Group1, 2a は χ^2 検定、Group3, 4a は Fisher の正確確立検定を、産婦希望の無痛分娩と帝王切開率の年度ごとの比較について 2016 年は Fisher の正確確立検定、2017 年と 2018 年は χ^2 検定を行った。

【結果】対象期間における Robson 分類の Group1, 2a, 3, 4a の産婦は 4342 名であった。産婦希望の無痛分娩導入前後において導入後に産婦希望の無痛分娩を実施した群の帝王切開率は、導入前の全体の帝王切開率と比較して Group2a では有意に上昇し (p 値:0.0357)、他の 3 グループで有意差はなかった。また導入後に、産婦希望の無痛分娩を実施した群と実施しなかった群を 4 グループにまとめて比較すると有意差があった (p 値:0.0093) が、Robson 分類ごとに比較すると帝王切開率はどのグループにおいても有意差はなかった。さらに導入後の、産婦希望の無痛分娩を実施した群と実施しなかった群を年度ごとに比較すると、4 グループをまとめて対象にした解析では 2016 年は帝王切開率が有意に上昇したが (p 値:0.0045)、2017 年と 2018 年には有意差がなかった。初産婦のみの Group1, 2a を対象とした解析では、2016 年は帝王切開率が有意に上昇し (p 値:0.0208)、2017 年と 2018 年は有意差がなかった。

【結論】産婦希望の無痛分娩の導入により帝王切開率は上昇し、特に初産婦の誘発症例で帝王切開率が上昇した。しかし、帝王切開率が上昇したのは産婦希望の無痛分娩を新規に導入した年度のみで、年度が進むと産婦希望の無痛分娩実施による帝王切開率の上昇は認めなくなった。産婦希望の無痛分娩の実施による帝王切開率への影響を正しく評価するために、Robson 分類で層別化を行うことが有用であることが示唆された。